

～＜CAPS研究員＞村上 陽子著～

「出来事の残響」

が出版されました。

～目次～

- 第1部 原爆を書く・被爆を生きる(原爆文学と批評—大田洋子をめぐって
原爆を見る眼—大田洋子「ほたる - 『H市歴訪』のうち」
半人間の射程と限界—大田洋子「半人間」)
- 第2部 占領下沖縄・声なき声の在処(来るべき連帯に向けて—長堂英吉「黒人街」
沈黙へのまなざし—大城立裕「カクテル・パーティー」
骨のざわめき—嶋津与志「骨」と沖縄の現在)
- 第3部 到来する記憶・再来する出来事(せめぎ合う語りの場—林京子「祭りの場」
体験を分有する試み—林京子『ギヤマンビードロ』
原発小説を読み直す—井上光晴『西海原子力発電所』)
- 第4部 いま・ここにある死者たちとともに(亡霊は誰にたたるか—
又吉栄喜「ギンネム屋敷」
音の回帰—目取真俊「風音」
循環する水—目取真俊「水滴」

詳細はこちらから (amazonへ移動します)

